

経済日誌 (5.1~5.31)

国内外

5.9◇五輪チケット、アクセス殺到

2020年東京五輪の国内在住者向けに販売するチケットの抽選申し込みが公式販売サイトで始まった。サイトには午後5時までに延べ約130万人がアクセスし、つながりにくい状態が続いた。申し込みは5月29日の午前で締め切れ、6月20日に抽選結果が発表される。

5.11◇汚れたプラスチックごみ、輸出規制

スイスで開かれた有害廃棄物の国際的な移動を規制するバーゼル条約の締結国会議は、汚れたプラスチックごみを輸出入の規制対象に加える条約改正案を採択した。日本がノルウェーと共同提出した。世界各地で問題化しているプラスチックごみによる海洋汚染に歯止めをかける狙い。

5.13◇景気判断、6年ぶり「悪化」

内閣府は3月の景気動向指数を発表し、経済情勢の基調判断について、これまでの「下方への局面変化」から、景気が後退している可能性が高いことを示す「悪化」に引き下げた。「悪化」の判断は2013年1月以来、6年2か月ぶり。中国経済の減速で輸出が鈍ったことが大きい。

5.13◇米、対中関税第4弾33兆円分

米国は、中国への追加関税をほぼ全輸入品に拡大する対中制裁の「第4弾」の原案を発表した。年間の輸入総額3,000億ドル(約33兆円)分に対し、最大25%を上乗せする内容。中国は報復措置の実施を示唆しており、関税合戦が世界経済全体に悪影響を及ぼす恐れもある。

県内

5.8◇いぶりがっこ、GI登録

農林水産省は、地域に根差した農林水産物を食品のブランドとして守る「地理的表示(GI)保護制度」に、秋田を代表する漬物「いぶりがっこ」を登録した。県内の食品では「大館とんぶり」(大館市)、「ひばり野オクラ」(羽後町)、「松館しぼり大根」(鹿角市)に続き4例目。

5.9◇秋田米新品種をブランド化へ

秋田県が2022年度の市場デビューを目指すコメの新品種「秋系821」の生産や販売に関する構想を固める「秋田米新品種ブランド化戦略本部」が発足した。新品種は「あきたこまち」を上回るプレミアム米としての位置付け。名称は全国公募し、2020年秋に発表する。

5.16◇eスポーツプロチーム、誕生

サーバー管理などを手掛けるエスツー(秋田市)が、コンピューターゲームの腕前を競う「eスポーツ」のプロチーム「秋田ライジングウォーズ」を結成した。東北では初のプロチーム。今後は実績を重ねて日本eスポーツ連合(東京)が発効するプロライセンスの取得を目指す。

5.20◇山葵沢地熱が営業開始

Jパワーなど3社が出資する湯沢地熱は、山葵沢(わさびざわ)地熱発電所(湯沢市高松、秋ノ宮)の営業運転を開始した。出力は4万6,199kWで国内4番目の規模となり、発電量は約9万世帯分の消費量に相当する。東北電力に全量を売電し、年約70億円の売上げを見込む。